

活動名称 (40字以内)	環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト											
団体名等	認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン											
活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input checked="" type="checkbox"/> 先着順									
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input type="checkbox"/> 書類審査									
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接									
	<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		2組4名 (2人1組での作業となる)									
	<input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動											
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動												
活動方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンラインを活用しつつ現地活動を行う <input type="checkbox"/> オンラインのみで活動を行う											
大学院学生	<input checked="" type="checkbox"/> 含む <input type="checkbox"/> 含まない											
参加資格等	学部学生及び大学院学生											
活動期間	2023/7/17(月) ~ 2023/8/17(木)	主な活動予定場所	日本全国の海岸									
	任意の1日											
目的	環境DNA手法により日本沿岸の魚の生物多様性を観測し、今後の保全・利用を考える											
具体的な内容 (800字程度)	<p>日本の周辺海域は、実は世界でも有数の生物多様性ホットスポットで、4,000種くらいの魚が生息していると言われています。しかし多様な魚がどのように日本沿岸に分布し、季節変動するのかについては、まだわかっていないことも多いのです。海の中で私たちは自由に動き回れませんから、そこを泳ぎ回る魚の調査は簡単ではないのがその理由です。また、調査の難しさは保全の難しさでもあります。温暖化をはじめとする地球環境の急激な変化が海に棲む生物に及ぼす影響が心配されていますが、それを知る方法がとても限られているのです。</p> <p>このプロジェクトの目的は3つ。一つ目は、最新の生物調査法「環境DNA」と市民の皆さんの力を借りることで、これまで誰もみたことのない解像度で「日本沿岸の魚の生物多様性」を観測すること。二つ目は、世界中の科学者が自由に利用できる生物多様性のデータベースを作ること。三つ目は、自分の手で身近な生態系の様子を知ること、日本沿岸域をどうやって保全・利用していこうか考える足がかりを作ることです。</p> <p>この企画は、東大弥生キャンパス内に事務局を置くアースウォッチ・ジャパンと協働で実施します。事前に、日本の沿岸域の生態や漁業について、本学農学生命科学研究科農学国際専攻国際水産開発学研究室(八木教授)から予め解説を行います。</p>											
備考												
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)	その他*特記事項は以下に記載										
	<table border="0"> <tr> <td>交通費</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>宿泊費</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>参加費</td> <td>3,000 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,000 円</td> </tr> </table>	交通費	円	宿泊費	円	参加費	3,000 円	計	3,000 円	<table border="1"> <tr> <td>奨励金額</td> <td>活動後に算出</td> </tr> </table>		奨励金額
交通費	円											
宿泊費	円											
参加費	3,000 円											
計	3,000 円											
奨励金額	活動後に算出											
ウェブサイト等	https://www.earthwatch.jp/?product=環境dna https://www.earthwatch.jp/doc/briefings/briefing_edna_web2022.pdf https://www.earthwatch.jp/ https://www.earthwatch.jp/doc/ewi_report/ewi_2021report_web.pdf											